

令和4年度 学校評価表 (中間)

三原市立沼田東小学校(校番12)

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】自分を愛し、夢を語る児童の実現 【ビジョン】児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びる」とともに伸びる」という教育風土がある学校 <めざす学校像>「ともに伸びる」という教育風土のある学校 <めざす子ども像>「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子ども」 <めざす教職員像>「児童を守り、育て、育む」事を時限氏、実践できる教職員
----------	-----------------------	----------------------	--

c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	参考		自己評価		改善方策		学校関係者評価												
					現在の状況(昨年度3学期末)	目標値	10月達成値	2月達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価	m コメント									
					達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度									
学力向上	【授業改善による学力定着】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】</li> <li>・児童の主体的な学びにつながる「問い」のある授業改善【研究部】</li> <li>・学び方の選択肢と自己決定のある授業改善【研究部】</li> <li>・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】</li> <li>・単元末テストから思考力・判断力が80%以下の単元のアシストシートを繰り返し行うことでの学力定着【研究部】</li> <li>・教材文等のことばに根拠を求める授業改善【研究部】</li> <li>・「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】</li> <li>・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】</li> <li>・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】</li> <li>【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】</li> </ul>	単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の平均値が指標に示す点を超える学級数	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)	国語	8/12学級	12/12学級	6/12学級	50	D	単元末テストの結果は、国・算・理・社会で目標値の半分しか達成できなかった。高学年はほぼ目標を達成できているが、低・中学年に課題が大きかった。 ・国語では、低学年では正しく表記すること、中・高学年では言葉の意味理解に課題があった。「書く」こと、文章を読み取ることに課題が大きいのと考える。 ・算数では、文章を式にしたり、式から問題場面を読み取ったりする問題、時刻と時間、長さや角度の測定に課題があった。実感を伴う理解が不十分であると考える。	教科書を大切に読んだ指導を行い、「読む」「書く」「聞く」「話す」活動をバランスよく仕組んだ授業を日々行っていく。 ・水曜6校時の学力補充の時間を使って、漢字・計算などの基礎基本は、同じ問題を定着するまで何度も繰り返して行う。また、それぞれの学年の課題に応じた対策問題を作成し、計画的に取り組んでいく。 ・他の課題を的確につかみ、何学年のどの単元に置きかえる原因があるかを探り、そこに立ち返った手立てを講じていく。計算においては、1～6学年の計算検定問題に取り組みさせる。 ・語彙を増やし、言葉の意味理解にもつながるよう、読書指導を継続して行う。 ・ICT機器を活用し、個々の定着状況に応じた家庭学習に取り組みさせ、内容、問題数などを工夫し、意欲的に取り組めるようにする。	○	・低・中学年が目標に届かなかったのが心配である。しんどい児童をどうするか改善策を考えたほうがよい。低学年の算数に力を入れる必要がある。 ・補充の6時間目をどうするかが大切である。 ・検定で級を取るなど、競わせて取り組む必要がある。									
					算数	6/12学級	12/12学級	6/12学級							社会	8/8学級	8/8学級	4/8学級	理科	6/8学級	8/8学級	4/8学級	
児童質問紙よりアンケートによる調査(あ)「国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」教科ごとにより総合評価する(い)「授業では、課題や問題について自分の考えをノートやプリントに書いている」(う)「授業では、課題や問題について自分の考えを話している」(え)「授業では、課題を解決するために、ICT機器等を使って、進んで資料を集めたり教材をまとめている」【評価時期】(1学期末・2学期末)	(あ)	90.2%	90%	74.2%	88	B	児童質問紙によるアンケートの結果は、4項目とも目標を達成することができなかった。 ・(あ)「国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」教科ごとにより総合評価するでは、理科・社会において肯定的評価が70%を切っていた。 ・(い)「自分の考えをノートに書いている」(う)「自分の考えを話す」力は伸びていないと考える。 ・(え)「授業では、課題を解決するために、ICT機器等を使って、進んで資料を集めたり教材をまとめている」では、一人ひとりがクロームブックを使用することで、ICT機器を使って調べ回数は増えてきた。	・国・算・理・社会に、児童自らが「問い」を持ち、学び方・調べ方を選びながら主体的に学習できるように授業改善を行う。 ・「書く」については、結論だけでなく理由をわかりやすく説明する活動を多く取り入れる。 ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えを伝え合う体験を積み重ね、自分の考えを話すことに自信を持たせていく。 ・クロームブックを活用し、インターネットで調べたり、図書室の本で調べたりした内容をスライド等で工夫してまとめる活動を効果的に仕組んでいく。							○	・理科・社会の肯定的評価が低い。ピクアップしてやるほうがよい。 ・授業は、児童に発言をさせたり、筆記をさせたりとよくできている。 ・クロームブックを、休んでいる子も活用してよい。							
QUアンケートの結果【評価時期】(5月下旬・11月下旬)	1次支援(A)の割合が50%以上の学級数	4/12学級	12/12学級	11/12学級													92	B	4月に行ったQUアンケートの結果、学級生活満足度においては、41%～95%と学級間の差が見られる。40%台は1学級、50%台は1学級、60%台は3学級、70%台は2学級、80%以上は5学級である。 学年が上がって、新たな学級集団の中で、友達との関わりや学習面において不安を抱えている児童がいたと考えられる。また、自己肯定感の低い児童が多いことも要因として考えられる。	・温かい教職員集団が、温かい学校、学級をつくることにつながる。「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識のもと、全教職員で児童に積極的に関わる。要支援群の児童は、職員間で情報を共有し、特に気に留めていく。 ・週2回、児童交流を行い、対応策だけではなく、効果のあった手立てや取組を交流する。 ・個別面談を学期に1回は設け、一人一人の児童の声に耳を傾け、児童の思いに寄り添った支援・指導を行う。	○	・集団作りをしっかりとやる。 ・面談を学期に1回ではなく、増やしてもよいのではないかと。 ・面談の後にもアンケートが取れるのではないかと。	
【共感的な人間関係づくり】	児童質問紙によるアンケート調査(あ)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」(い)「自分にはよいところがある」(う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」(え)「将来の夢や目標を持っています」(お)「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」【評価時期】(1学期末・2学期末)	(あ)	93.7%	95%					94.3%	91	B	7月に行ったアンケートの結果、全項目で、目標値には至らなかった。特に、「自分のよさを周りの人に認められていると思う」では、79.8%と5項目の中で一番低く、昨年度に引き続きこの項目が一番低い。このことは、自己肯定感と深くつながっていると考えられる。	・一人一人の児童が、学期ごとに目標を立て、その振り返りをしていく中で、結果ではなく過程を認める声が多く出ていく。 ・児童会役員を中心に、リモートでの全校朝会を実施し、各クラスの頑張りや認め合える場を設定する。 ・場を逃さず、児童の頑張りやよさを認めていき、全体に広げていく。また、問題行動等、すぐに連携を図り組織で取り組み、早期発見・早期対応に努める。 ・授業や授業外で教師と児童がつながる。児童と児童がつながる。かわり合うことを大切にする。また、地域の方や高校生との交流の機会を設ける。 ・肯定評価をしていない児童の要因を分析し、手立てを個々に応じて講じていく。	○									・「誰かに認められている」という質問では、答えるのが難しいのではないかと。「誰かを認めている」という質問にしたらどうか。自分が相手に尊重する(リスペクト)という態度が大切。 ・いじめはどうか。不登校になっていないか。
【生涯にわたって運動しようとする心構えの育成につながる授業改善】 【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】	児童質問紙よりアンケートによる調査「体育の授業は楽しい」	肯定的評価の割合	「体育の授業」98.9% 「感染症」95.1%	「体育の授業」95% 「感染症」100%					98														
教師が、児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する心と態度を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく、運動量がある体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【健康安全部】</li> <li>・児童同士が「見る」ことを大切に体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】</li> <li>【健康安全部】</li> <li>・感染症を防ぐための取組の実施【健康安全部】</li> </ul>	○市の方針「勤務時間上限の目安時間」「上限の目安時間及び特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(9月末・1月末)	57%	100%	65%	65%	C	・時間外等勤務45時間以上は4月24人中16名、5月12名、6月17名、7月2名、8月0名、9月4名であった。4～6月は、年度初めの準備や児童理解、教材研究等で時間外が多くなってしまった。夏季休業中に時間外勤務を減らすことができたことをよききっかけとして、入校7:30以降、退校18:30までを目標に現在取り組んでいる。9月も45時間以上になってしまいう教職員が数人いたが、65時間を超えるような働き方をしている教職員はいない。また、時間を定切るだけでなく、教職員から出てきた業務削減の取組(週計画を校務支援システムで行う。毎週木曜日を5校時授業にし、仕事ができる時間を確保する等)を実施している。また、丸付け等の仕事が溜まっている様子が見られたら、職員間で声掛けを行い、できる支援を行った。							○	・在校時間等勤務45時間以内が、なぜ解消できないのか、原因を探り改善につなげる。 ・終わりの時間を個々で決めて仕事をすることが大切。 ・意識の問題を改善することが大切。自己チェックを行うとよい。 ・ワークライフバランスで、今日は「家庭を大切にしよう」と考える。 ・年休の計画的な活用を行ってほしい。							

【自己評価 評価】  
A:100% (目標達成)  
B:80% (ほぼ達成) <100  
C:60% (もう少し) <80  
D:できていない <60

○:自己評価は適正である。  
□:自己評価は適正でない。  
△:分からない。